第１８回「学ぶ土台づくり」推進連絡会議
議題内容（委員発言要旨）

日時：令和３年２月５日（金）
午前１０時から午前１１時まで
Ｗｅｂ開催

１　宮城県幼児教育推進指針みやぎの学ぶ土台づくり（最終案）について（委員発言要旨）

＜川島隆太座長＞

○　非常にわかりやすい「宮城県幼児教育推進指針みやぎの学ぶ土台づくり」(以下「指針」という。)が仕上がったのではないかという印象を持った。

○　教育企画室の説明に対して，各委員から質問・意見等があれば，発言をお願いしたい。

（委員全員発言なし）

＜川島隆太座長＞

○　本指針に委員全員が賛成したということで決定とし，公表することとなる。

２　意見交換　「みやぎの学ぶ土台づくりの推進について」（委員発言要旨）

＜和泉実佳委員＞

○　親子間の愛着形成など「学ぶ土台づくり」の取組について，コロナ禍で保護者が幼稚園を訪れる機会も減少している中で，保護者が指針を活用して様々な取組を実践したいと考えたときに，指針の言葉遣いはやわらかく，保護者のニーズに合った活用しやすいものになっていると感じた。

○　教育企画室による指針の説明にもあったが，幼児教育ポータルサイトを活用した周知方法を今後検討していく必要があると感じた。自園（松島第五幼稚園）も含めて幼児教育施設に対する周知は課題であると感じているため，幼児教育ポータルサイトによる周知や情報発信の方法を検討していただきたい。幼児教育ポータルサイトを活用して，国公立幼稚園の取組を広げていきたいと考えている。

＜川島隆太座長＞

○　周知や情報発信の方法について，教育企画室として検討しているものがあれば，発言をお願いしたい。

＜宮城県教育庁教育企画室＞

○　スマートフォンから手軽に見ることができるなどの工夫をしていきたいと考えている。

○　多くの保護者に読んでもらいたいため，市町村が実施する乳幼児健康診査の場を活用するなどしてパンフレットを配布できれば，指針の存在を知らなかった保護者の方にも，周知できるのではないかと考えている。

＜川島隆太座長＞

○　ぜひ積極的に進めてもらいたい。

＜菊田秀昭委員＞

○　全国認定こども園協会宮城県支部には，現在４２園が加盟している。県内においても，認定こども園が年々増加しており，認定こども園のポテンシャルも年々上がってきていると感じる。

○　「学ぶ土台づくり」の取組は非常に良い取組であり，当支部内にも発信している。

○　今後，他団体と一体となって取り組むということはすぐには難しいかもしれないが，まずは当支部を通じて，「学ぶ土台づくり」の取組を波紋のように広げていきたいと考えている。当支部内で中心となる園から他園に広がり，そこから更に他団体と「学ぶ土台づくり」の取組を共有できれば，全県的に取組が波紋のように広がっていくのではないかと感じる。

○　まず当支部内に広めていくために，このようなパンフレットに加えて，当支部の会合などで，県から「学ぶ土台づくり」の取組について説明していただきたい。県の立場から説明していただければ，理解も進む。

○　「学ぶ土台づくり」の取組は子供に届くことが重要であり，子供に届くためには保育施設側の理解がなければ難しいと感じる。保育施設側の理解を促していくためには，連続的な発信をしていかなければ届くことは難しいと感じる。

○　私は「学ぶ土台づくり」の取組は非常に良い取組だと感じながら，本会議に参加しているので，ぜひ県とも共有しながら取り組んでいきたいと考えている。当支部として，保健福祉部子育て社会推進室には大変お世話になっているが，教育委員会とも今後連携を取りたいと考えている。

＜川島隆太座長＞

○　教育企画室で全国認定こども園協会宮城県支部への説明機会を設けるよう調整していただきたい。

＜和田祐子委員＞

○　「学ぶ土台づくり」の取組は大変すばらしい取組だと感じている。

○　小学校として幼児教育からの接続はとても重要だと考えており，例えば，市町村の会議などは，小学校・中学校と幼児教育施設とで所管課が異なることもあるが，小学校側の視点から幼児教育について考えていく必要がある。幼児教育施設側の視点から小学校教育について考えていくということと併せて，今後広めていけるのではないかと捉えている。

○　また，小学校教員も，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から理解していこうと取り組んでいるが，このような指針があると，保護者にとって，「わかりやすい」「やってみたいな」「やってみようかな」「あ！こういう効果が期待できるのか」とストレートに読むことができる内容だと感じたので，小学校教員も指針の内容を理解して進めていければよいと考えている。その上で，保幼小の交流の中でこの部分も話題にしながら，幼稚園や保育所の保育者と取り組んでいければ，更に保護者にも浸透していくのではないかと考えている。

＜齋藤勇介委員＞

○　「学ぶ土台づくり」の取組は大変すばらしい取組だと感じている。

○　指針は，言葉遣いもやわらかく，色合いやイラストにも細やかな配慮がされているため，保護者の視点から見ても，大変活用しやすい指針になったのではないかと感じた。

○　児童館・放課後児童クラブは，０歳から１８歳までの子供を対象として，つながりを持った成長に日々寄り添っている立場である。

○　このような指針があることで，乳幼児期や学童期といった様々な子供の保護者に対してアプローチできるのではないかと感じた。県内の２００か所以上ある児童館や放課後児童クラブ内でも指針を広め，現場においても，保護者との会話や悩み相談など様々な場面で活用していきたい。

○　現場のスタッフも指針を理解することで，現在実施している取組や方針などについて，各機関の方々と心を一つに取り組んでいくためのツールになるのではないかと感じた。

○　大変すばらしい指針だからこそ，「指針の活用」や「保護者の方に指針を届ける」という役割が，今後非常に重要になってくると感じている。スマートフォンから手軽に見ることができるなどの工夫も，教育企画室で考えていただいているが，次は，我々現場のほうで伝えるという役割がある。スマートフォンで見ることができることを知らなければ活用もできないので，各機関や地域の取組においても，日々の活動の中で指針を発信していきたい。

○　今後，保護者が気軽に指針を活用できるような取組が非常に重要になるため，皆さんと協力しながら実践していきたいと感じている。

＜川島隆太座長＞

○　ぜひ地域の中でも広めていただきたい。

＜村上織恵委員＞

○　指針を親の立場から見て，内容が非常にわかりやすく，参考になるものだと思った。

○　しかし，今は仕事の関係もあり非常に忙しい親が多く，紙媒体だけではなかなか見ることが難しいので，教育企画室による指針の説明にもあったように，スマートフォンからホームページに接続できればよいと感じた。

○　また，ＱＲコードからの接続は，「アクセスしやすい」「検索せずに相応のサイトに接続できる」といった利点があるため，指針にＱＲコードを掲載した上で周知していただければ，親の立場としてありがたいと感じた。

＜川島隆太座長＞

○　ＱＲコードの掲載は難しい取組ではないと思うが，可能か。

＜宮城県教育庁教育企画室＞

○　ＱＲコードを掲載予定であり，ＱＲコードから保護者にも見ていただき，そこからまた波及していくことも期待している。

＜波多野ゆか委員＞

○　とてもすてきな指針となり，大変喜ばしく思っている。特に，見やすさや読みやすさ，アイコンによるわかりやすさといった点が大変うれしく，手に取り読ませていただいた。

○　家庭教育支援チームでは，幼稚園・保育所や小学校・中学校へ出向き，「宮城県版親の学びのプログラム『親のみちしるべ』～十人十色の子育て＆親育ち～」を活用しながら，「学ぶ土台づくり」の取組をより具現化し，わかりやすい内容で伝えている。家庭教育支援チーム内でも，指針を活用し，より学びを深め，様々なところに届けたいと感じた。

○　今後も，家庭や教育現場だけではなく，地域でも「こうやって子育てをしているのだから，一緒に子育てを手伝いながら，見守りましょう」と感じられるような，地域も含めた全県に広げられる工夫をしていただければうれしく感じる。

＜石垣政裕委員＞

○　指針の表紙から，「一本の幹がずっと葉を広げていく」というイメージが非常によく伝わり，親しみやすい指針に仕上がったと感じた。

○　我々は指針を読むだけではなく，毎年度評価・検証していくことが非常に重要であると感じている。

○　早寝・早起き・朝ごはん実行委員会では，団体の名称のとおり，「子供たちの基本的生活習慣を向上させていく」ことを目的とし，様々なスポーツクラブや団体，民間企業，教育機関などと立場を越えて一体となりながら，子供たちの基本的生活習慣を考えていく活動を以前からしている。コロナ禍で，活動が大人に限定されているが，今後指針を活用して，様々な取組をしていきたいと感じている。

○　８～９年ほど前から，県内２００か所程度において，「早寝・早起き・朝ごはん」に関する紙芝居演劇を上演してきたが，その際に様々な教育機関や園と意見交換する機会があった。そのような意見交換の場において，指針のイメージ図から，「我々の取組は，この幹の部分なのですよ」という説明ができるため，今後指針を活用して取り組んでいきたいと感じている。

＜塚原俊也委員＞

○　本会議には，「民間」と「豊かな自然体験による学びの促進」の立場から参加している。

○　今後，県内で自然体験や伝統文化の活動をしている方や「森のようちえん」の方に「学ぶ土台づくり」の取組を紹介するに当たり，ホームページで使用できるロゴマークやピンバッチなどの目に触れるわかりやすいものがあればよいと感じている。

○　県知事の記者会見において，県知事に「学ぶ土台づくり」と印字されたマスクを着用していただくなど,「学ぶ土台づくり」というフレーズが自然に目や耳に入る仕掛けがあればよいと感じた。「学ぶ土台づくり」というフレーズは，大変印象に残りやすいフレーズであるので，そのような工夫ができたらよいと感じた。

○　ＳＤＧｓの「誰一人取り残さない」という視点からも，この「学ぶ土台づくり」の取組は，教育委員会の取組だけではなく，県内に住む全ての子供に必要なことであると考えている。教育委員会としては,「志教育」に接続すると考えられるが，家庭教育やフリースクールに通う子供たちなど多様な学びに対しても必要な取組である。そのような点からも，民間やＮＰＯなど我々の役割として，多様な学びとつながり,「学ぶ土台づくり」の取組を「地域で教育を地産地消していく」というイメージで広げていくことが重要である。コロナ禍で外出も難しいため，県内においてこのようなすばらしい取組を広げていくことができたらよいと感じている。

○　民間の自然体験フォーラムなどに「学ぶ土台づくり」の名義で後援するなどの連携もできるとよいと感じている。

○　子供と上手く関わることができる・支援できる方を増やす努力をしていければよいと感じている。

＜川島隆太座長＞

○　ロゴマークを作成して県知事に着用していただくなどユニークなアイディアが出されたが，少なくとも,「学ぶ土台づくり」と印字されたバックボードがあれば,「なんだろう？」と注目を引くことができると思うので，大いなる努力目標として取り組んでいただきたい。

＜伊勢みゆき委員＞

○　他の委員と同様に，指針は，見やすさや言葉遣いのやわらかさが大変すばらしいと感じた。

○　その上で，３点発言させていただく。

○　１点目は，基本方向１の「親子間の愛着形成の促進」は非常に重要な部分であるため，説明が全て文章であることはもったいないと感じたことである。例えば,「優しく見つめておしゃべりしましょう」や「子供と直接触れ合って遊びましょう」などの取組は当然のことではあるが，可能であれば，この取組の内容がイメージできるようなやわらかいイラストをさりげなく後ろに加えていただきたい。この指針を読み込む意識がある母親もいると思われるが，２０代などの若年層の母親に対しては，指針を見て，瞬時に「目指す子供の姿がどのような姿なのか」をイラストなどで伝えるほうが，頭の中に残りやすいと思われるため，そのようなイラストを加えていただきたい。

○　２点目は，和田祐子委員の発言にもあったように,「幼児教育と小学校教育の円滑な接続」など保幼小連携の取組に関して，コーディネーターの立場として様々な学校に出向いている中で，教職員同士の情報交換などは非常に重要であると感じていることである。

○　県の協働教育として取り組んでいる小学校へのボランティアはあまり進んでいないが，仙台市では「小１のための生活・学習サポーター事業」として，多くのボランティアの方に協力していただいている。

○　ある保育園の園長との情報交換の場では，保育士が生活・学習サポーターのように小学校に数回配置される仕組みづくりはできないかという話題が出た。幼稚園や保育所を卒園（所）した子供たちが「１年生でどのような状況になっているか」ということは，気にかかる点であり，おそらく小学校でも，１年生の初めの段階において，保護者とのつながりもある保育者などのより専門的な大人が配置されることで，子供たちの安心感は違ってくるのではないかと考えている。子供たちは，急に環境が変わることによる不安が大きいのではないかと感じているので，幼児教育と小学校教育の接続において，新人研修や職員研修の一環として，幼稚園や保育所の保育者と共

に子供を見守る仕組みをつくることができないかと考えている。

○　３点目は，環境生活部共同参画社会推進課で開催している県内全ての青少年の健全な育成に関する施策を協議する青少年問題協議会の委員の立場として，一つ気にかかることがあることである。問題と感じる青少年への支援が様々な事業に組み込まれているが，根底として，家庭教育と保護者支援が重要であり，そこが問題をますます複雑化しているのではないかと感じている。実際のところ，問題がある家庭に対するアプローチはあるものの，そのほかにも自分自身の子育てに悩んでいる母親や周囲の母親を気にしている母親も大変多いと認識している。そのような母親が自ら立ち上がって「なにかをやりたい」と考えたときの支援が，一切ないということは課題であると考えている。この指針の策定後の要望ではあるが，母親自身が主体となって取り組むための場をつくるなどの事業があればよいと感じた。どこかが主導するのではなく，母親が緩やかに頑張ることができるための「緩やか予算」などで，少額の予算でも事業としていただけないかと考えている。 子供たちが健全に幸せに育つために，「助ける」ための支援だけではなく，母親の力を信じて，そのような母親を増やしていくことや場をつくることができればよいと考えている。

＜川島隆太座長＞

○　新事業の提案も含めて，県として，前向きに検討していただきたい。

＜須藤宣毅委員＞

○　防災に関するワークショップの開催やこども新聞の作成をしており，また，論説委員も兼務しており社説を書いている。

○　他の委員の発言にもあったように，スマートフォンが非常に身近になってきている中で，Ｗｅｂの活用は必須であると感じている。例えば，緊急速報メールを受信すれば，能動的に情報収集することは習慣化している。そのため，Ｗｅｂサイトの作成においても，知りたいキーワードを入力して検索すれば，紹介ページや項目に遷移するなどの工夫をしていただきたい。

○　幼児教育に関係する各主体は，「家庭」「教育現場」「行政」「地域社会」と表記されているが，おそらく，「家庭」「教育現場」「行政」は，子供と直接的な関わりがある主体であると考えられるが，「地域社会」は，その言葉が何を指すかにより，子供との距離がある程度ある場合も想定される。このことは，地域性により異なるとは思うが，地域の祭りなどを開催している町内会であれば「子供」と「お年寄り」の接点はあるものの，都市部であれば意識して接点をつくらなければ難しい状況もあると思う。そのようなことが，今後の課題であるとともに，情報発信の方法を工夫する必要があると感じている。例えば，幼稚園や保育所におけるイベントの開催時に，保護者だけではなく，町内会の役員などの地域の方を巻き込んでいくような取組も考えられるのではないかと感じた。

＜川島隆太座長＞

○　地域とどのように関わるかということは，非常に難しい部分であると思われるが，ぜひマスメディアにも協力していただきながら，機運を盛り上げていただきたい。

＜吉岡弘宗委員＞

○　指針は，大変かわいらしく仕上がり，良かった。

○　一方で，幼稚園年長の「６歳における発達状態」や「６歳の子育てとしてどうか」などのチェックシートがあればよいと感じていた。より一層内容を周知していくためには，段階を経たような捉え方ができるようにするため，７歳や８歳におけるチェックシートがあってもよいと感じた。それは，親が自身の子供との関わりだけになっていることが多くなり，周囲と発達や子育てなどについてやりとりする環境が減少してきたように思われるためであり，この指針を有効に活用できる方法や手段があればよいと感じた。

○　さらに，子ども・子育て支援新制度が始まり，幼稚園や保育所では，「１号認定」「２号認定」「３

号認定」といった号数を付けられ，その号数のまま親は関わっている。要するに，親子間の愛着形成の観点から，「２号認定だから」「３号認定だから」などの号数の関わりになってしまっていることを残念に感じている。

○　働き方改革と言われているが，親はまだまだ子供のほうを向いていないところがあると感じているため，幼稚園や保育所において，親が子供の育ちを感じとめることができるような情報発信の方法を工夫していきたい。子供が豊かな心を持つための関わりについて，親が考えられるように，指針の活用が身近になることを期待したい。

＜中鉢義徳委員＞

○　他の委員の発言にもあったように，指針は，箇条書きなどの見やすさや読みやすさの工夫がされていることや，「志教育」を大きな目標とした４つの基本方向や７つの取組もわかりやすく，保護者も非常に理解しやすいと感じた。

○　特に，「地域の伝統的な文化に触れる」の取組は，乳幼児にとっては経験や体験がこれからの多くの学びにつながるため，大変良い取組だと感じた。子供も保護者も地域住民との交流は必要であり，親子間の愛着形成にもつながることなので，宮城県保育協議会として様々な研修や会合などを活用しながら，「学ぶ土台づくり」の取組について重点的に広報活動をしていきたい。

○　また，富谷市教育委員会では，家庭や地域，学校をつなぐ実行委員会を置いて活動をしているが，実行委員長の立場として，このパンフレットをそのような場においても活用していきたいと考えているので，できるだけ多く印刷していただきたい。

○　さらに，保幼小連携は非常に重要であると考えており，子供や保護者の小学校入学に対する不安を解消するためには，小学生との交流が大きな柱となる。今後も小学校に協力いただきながら，小学生や小学校教員との交流による関わりを持ち，小学校入学後の子供たちの学習意欲につなげていきたい。

＜佐藤哲也委員＞

○　２点発言させていただく。

○　１点目は，指針はよくできていると感じたことである。個人の意見として，幼稚園教育要領等に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について触れられていないことは，とても良いことだと感じている。他の都道府県や市町村が作成したこうした資料などを見ると，「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を大きく掲げ，特定の子供像などに向かい資質能力を育てていくことが幼児教育と小学校教育の接続や連携となるというトーンを強く感じていた。一方で，この指針は，県の手づくりであるとともに，地域の実情や子供の姿を踏まえた指針になっている点は，大変評価したい。

○　２点目は，外国籍の子供についてである。角田市の幼児教育懇談会において，ベトナム人の外国人労働者の子供について，子供も保護者も日本語を全く話すことができないが，保育を受ける権利・学ぶ権利があるため，角田市としてどのように受けとめていけばよいかという話題が出た。この指針においても，「一人一人に応じた教育・保育の展開」の取組において，「海外から帰国した子供」を意識した文章に，外国籍の子供に関する内容を加えていただきたい。または，そのような問題意識を共有していくために，今後県で生活を共にする仲間として，そのような子供たちも含めて巻き込んでいきたいと考えていた。

＜川島隆太座長＞

○　特に，外国籍の子供に関する意見は，非常に重要であるため，反映していただきたい。

＜川島隆太座長＞

○　それぞれの団体の代表である各委員から意見をいただき，良い指針に仕上がったことは喜ばしいと感じている。

○　本会議で共有した意見を踏まえ，今後，「みやぎの学ぶ土台づくり」の推進に向け，それぞれの団体の立場で連携して進めていければと願っている。